



1. 板石山頂での鉄平石加工風景（1994年3月）。小さな削岩機様の道具で節理面にすじを付け、裏からたたくと棒状の石材ができる。

長野県 佐久の鉄平石

鉄平石は長野県の代表的石材であり、利用の歴史は江戸時代までさかのぼるといふ。板状節理に沿って薄くはがれる安山岩が、当初は主に庭石や瓦の代用品として利用されていたが、鉄道の開通により石材産業としての形態を整えるようになった。現在は年1.5万トン余りが建築および造園用装飾材として全国に出荷されている。

佐久の鉄平石は、佐久鉄道（小海線）の開通と共に1919年頃から採掘されるようになり、現在総生産量の約1/3を占めている。主産地の諏訪地区のものよりやや厚く（3cm前後）、色調も灰青色-褐赤色などと変化に富み、節理面に沈澱した鉄やマンガンの酸化物が描く縞模様も珍重されて、佐久町の主産物のひとつになっている。この安山岩は、第四紀の諏訪地区のもの（約百万年前）より古く、鮮新世（約4百万年前）に形成された。佐久町東部の余地から群馬県境の山頂部に分布し、主な採掘場である板石山の名前も板状の石が目立つことに由来する。

（地質調査所鉱物資源部 佐藤典平・元北海道大学理学部地質学鉱物学教室 由井俊三）



2. 佐久町の小海線羽黒下駅前広場の舗装。



3. 板石山の鉄平石採掘場（西端部，1994年3月）。

4. 門柱や家の外壁に使われた鉄平石（こば積）。



5. 外壁に使われた鉄平石（乱形貼）。節理面に沈澱した酸化物がさまざまな模様を見せる。